

# FLORA of KOCHI

No.42

The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden

## 探してみよう！ 初夏編

### ハマグルマの仲間 (キク科)

*Sphagneticola* Blume and *Wollastonia* DC. ex Decne.

キク科ハマグルマの仲間は、高知県植物誌 2009 ではハマグルマ属 (*Wedelia*) として 3 種 1 変種が報告されています。その後の研究により本属は細分され、県内に生育するこれらのうちネコノシタ、オオハマグルマ、オオキダチハマグルマがキダチハマグルマ属 (*Wollastonia*) に、クマノギクがアメリカハマグルマ属 (*Sphagneticola*) に分類されました。植物誌刊行後の調査で分布が確認されたアメリカハマグルマは後者に分類され、世界の侵略的外来種ワースト 100 に入る外来植物です。本種は確認されたのち室戸市で防除がおこなわれ、現在はその生育が確認されていません。アメリカハマグルマの葉には三角状の鋸歯があるが、葉の中央がくびれるほこ形になることが特徴で、他種と区別することができます (写真 1)。本種を見つけたら在来種との雑種をつくる恐れもあることから、早めの防除をお願いします。

各分類群の特徴は表のとおりです。オオキダチハマグルマ (写真 2) はその名のとおり、つる性で他物にはい上がることで他種とは異なりますが、これらは高知県の植物相の

解決すべき課題の一つです。県内に生育する種類が、キダチなのかオオキダチなのか、両種があるのか、オオキダチは分類学的に分けられるものなのかという疑問です。須崎市で採集された個体が、葉の先端が尖り、頭花が小型であったことから小山 (1982) によるキダチハマグルマの特徴を示しますが、さらに生育地での個体群の観察と他地域から採集された標本との比較が必要です。また、オオキダチはキダチの連続した変異に含まれるもので、オオキダチを認めない見解もあります (Wagner and Robinson 2001)。県内ではほかにキダチと何らかの雑種の可能性が示唆される個体も報告されています。

オオキダチハマグルマとオオハマグルマは高知県内での分布は限られ、高知県レッドリスト (植物編) 2010 改訂版では、前者が絶滅危惧 IA 類 (CR) に後者が絶滅危惧 IB 類 (EN) に指定されています。

夏といえば海。海岸に行くとキク科の割に比較的控えめなハマグルマの仲間、オオキダチハマグルマやオオハマグルマを探してみましょ！



写真1 アメリカハマグルマ 2019年6月 ミャンマー

写真2 オオキダチハマグルマ 2009年12月 室戸市

### 表 高知県のキダチハマグルマ属とアメリカハマグルマ属の区別点

	生育の特徴	葉の形	鋸歯	総苞片の長さ	頭花の数	頭花の径 (cm)	高知県内の分布	分布および原産地	高知県 RL(2010)
オオキダチハマグルマ <i>W. biflora</i> var. <i>ryukyuensis</i>	つる性で他物にはい上がる	卵形~長卵形	鈍鋸歯~ 明瞭な鋸歯	外片≤内片	枝の先に 3~6つ	2.5~3	室戸市, 須崎市	琉球, 台湾	絶滅危惧 IA類
ネコノシタ <i>W. dentata</i>		長楕円形, ときに卵形 または披針形	まばらな 鋸歯		茎の先に 1つ	1.5~2.2	室戸市, 安芸市, 芸西村, 高知市, 須崎市, 四万十 町, 黒潮町, 大月町	本州(関東・北陸地方以西) ~琉球・小笠原, 済州島・台 湾・中国・ベトナム	—
オオハマグルマ <i>W. robusta</i> *	砂地にはう	卵形~広卵形	まばらな 鈍鋸歯 ~鋸歯	外片>内片	茎の先に 3つ, まれ に1つ	2~2.5	室戸市, 黒潮町, 大月町, 宿毛市	本州(紀伊半島)~琉球, 台 湾	絶滅危惧 IB類
クマノギク <i>S. calandulacea</i>		披針形~ 長楕円形	低い鋸歯 があるか ほぼ平滑		茎の先に 1つ	1.5~2.5	室戸市, 高知市, 黒潮町, 土佐清水市	本州(伊豆半島・紀伊半島)・ 四国・九州・琉球, 台湾・中国 (南部)・マレーシア・インド	準絶滅危 惧
アメリカハマグルマ <i>S. trilobata</i>	地面にはう	被針形~長楕円 形, または中央で くびれるほこ形	三角形の 鋸歯が明 瞭な鋸歯			2~4	室戸市(防除済み)	熱帯アメリカ原産で世界に 広く分布	

【引用・参考文献】

高知県. 2010. 高知県レッドリスト (植物編) 2010 年改訂版. 高知県.  
門田裕一. 2017. キダチハマグルマ属・アメリカハマグルマ属. In: 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 (編). 日本の野生植物 5: 358-359. 平凡社. 東京.  
小山博滋. 1982. オオキダチハマグルマ (新称). 植物分類・地理 33: 245.  
藤川和美. 2009. ハマグルマ属. In: 高知県・高知県牧野記念財団 (編). 高知県植物誌 pp. 513-514. 高知県・高知県牧野記念財団. 高知県.  
Orchard A.E. 2013. The *Wollastonia/Melanthera/Wedelia* generic complex (Asteraceae: Ecliptinae), with particular reference to Australia and Malaysia. Nuytsia 23: 377-466.  
Wagner W.L. and Robinson H.E. 2001. *Lipochaeta* and *Melanthera* (Asteraceae: Heliantheae subtribe Ecliptinae): establishing their natural limits and a synopsis. Brittonia 53: 539-561.

\**Wollastonia robusta* の新組合せを便宜的に使用する。



# 高知県の植物 ニュース

## ■ キヌラン *Zeuxine strateumatica* (L.) Schltr. 発見

文・写真：鴻上泰

2018年4月1日、自宅のアプローチから35mほど北の道路沿いの草むらにアリアケスミレの群落があり、その花を撮影していた際、隣に見かけない花が咲いていました。調べてみるとキヌランに該当するようで、世界の亜熱帯や熱帯、日本では南九州、沖縄に分布し、四国での記録はないようでした。最初に見つけた株は高さ10cmほどで、花を10数個つけ先端はまだつぼみがありました。4月5日にはほぼすべての花が開花しました。この時点では1株のみでしたので、花数を液浸標本用に採集し、同定の結果、キヌランであることが確認されました。初めに見つかった個体は、4月23日には唇弁の色も沈んで花は終わりかけの状態になりました。しかし、50mほど離れた場所にも開花中の個体が見つかり、結局そこから13mほどの範囲内に20数個体が確認できました。

最初にわいた疑問はなぜ突然この場所に出現したかということで、国内帰化ではないかとも思いました。この山はごみの投棄がひどく、植物でも過去に破棄された栽培植物の近くにダイサギソウが咲いていたり、山頂近くの林道にヤブレガサモドキが1株出現したりしていたからです。山裾にはランの栽培家の方がおり、この山に再々車で来られていたこともあったので、キ

ヌランの栽培歴を尋ねましたが、栽培したことはないということでした。私自身もここ10年以上沖縄方面へは行ってないし、隣にお住いの方も沖縄方面へは行ってないので、見つかった個体群は今のところ自然分布と考えています。

今年3月23日には2018年に見たところには発生せず、その場所から45m離れたところから20mほどの範囲に25個体が道の両側に発生していました。



写真2 キヌランの花

4月9日には48個体を確認しましたが、うち9個体はその後動物の踏圧や昆虫の食害により消滅し、残ったのは39個体(総花実数98)。さらに4月12日にはそこから25mほど離れたところに新たに2個体(花数5)、さらに道のわだちの中の草むらにも見つかり、結局4月23日には59個体(総花実数165)を数えました。

集中して生えている場所は未舗装の道の水たまりの周囲で、水分を好むことがわかります。花のピークは4月初旬から5月初旬までで、4月6日にはハナカミキリ科と思われる甲虫(受粉には関係ない模様)と小さなハチ(コツチバチ科?)が花に来ていました。

結果数を確認しようと思いましたが、少し遅くなって5月21日に確認したところ、結実していたのは59個体64果でした。

キヌランは気まぐれなランで発生したりしなかったりするそうなので、今後を見守りたいと思います。



写真1 キヌラン (2019年3月23日)



写真3 個体の位置につけたラベル (2019年3月23日)

2016年7月に始まった外来植物調査が今年3月に終わりました。史前帰化植物を除く全ての外来植物を調査対象に、53旧市町村単位で市町村ごとの生育分布を調査しました。約2年半の調査の期間中、のべ2,657人の方々にご協力いただき、8,919件の外来植物情報が集まりました。

**確認された外来植物**

本調査期間で新たに確認された外来植物は101分類群で、高知県に生育する外来植物の種数は、727分類群（国内由来の外来植物と検討種を含む）となりました。このうち、意図的に導入されたと考えられる種は452分類群、うち園芸目的で導入された種は293分類群でした。飼料や法面緑化資材に混入するなど非意図的に導入されたと推定されるものはキク科、イネ科、マメ科、アブラナ科、ヒルガオ科など275分類群で、これら多くは原産地が北米や南米、ヨーロッパなどで、明治以降に導入されたものでした。なお、本調査では、継続調査を前提に一時的に逸出した可能性がある栽培植物も調査対象としたため、確認された727分類群の中には定着せずに消えていく種類もあると推測されます。

**特定外来生物(植物)の生育分布**

外来生物法により指定されている特定外来生物(植物)16種類のうち、これまで県内で確認されたものは9分類群、アゾラ・クリスタータ(アカウキクサ科)、ボタンウキクサ(サトイモ科)、アレチウリ(ウリ科)、オオフサモ(アリノトウグサ科)、オオカワヂシャ(オオバコ科)、ミズヒマワリ、ナルトサワギク、オオキンケイギク、オオハンゴウソウ(キク科)で、合計533地点で確認されました(図1)。そのうち、最も多く確認されたものはオオキンケイギクで全旧市町村、次いでオオフサモが18旧市町村でした。オオキンケイギクは、主に道路沿いで採集されたほか、人家の庭や墓地などでも確認されました。オオキンケイギクが“特定外来生物”で栽培が禁止されていることを知らない県民がまだ多いことを裏付ける結果となりました。

**注意すべき外来植物(予報)**

県内における分布拡大が著しい注意すべき外来植物として、イリオモテアサガオ(ヒルガオ科)、ヤナギバルイラソウ(キツネノマゴ科)、メリケントキンソウ(キク科) やすでにニュースレターNo.36で発見の経緯を報告したヨシスキ(イネ科)などが挙げられます。

イリオモテアサガオは高知県植物誌2009ではわずか3地点からの報告のみでしたが、42旧市町村264地点で確認されました。人家の庭に植えられたものが野生化し、林縁を覆い尽くしてしまっているようなところもありました。

ヤナギバルイラソウも県中部4地点(標本は3地点のみ引用)のみの報告が、平野部の市街地を中心に43旧市町村281地点で確認されました。これら2種は観賞目的で栽培されたものが逸出し爆発的に広がったと考えられます。

メリケントキンソウは植物誌に記載がありませんが、本調査結果では22旧市町村49地点、主に公園の芝生内から採集されました。

**高知県の外来植物 2019 の出版**

本調査結果をもとに、旧市町村ごとにその生育分布の有無をまとめた「高知県の外来植物 2019」を出版しました。外来植物の生育分布が最も多い市町村(旧市町村)は高知市、続いて南国市でした。一方、生育分布が少ない市町村(旧市町村)は、池川町、吾北村でした。「高知県の外来植物 2019」をご希望の方は、お申し付け下さい。

**今後について**

本調査は、高知県が環境行政施策を展開するうえで必要な基礎データを提供するため、県内に生育する外来植物を網羅した「外来植物リスト」を作成し、それらの分布状況を把握することを目的としました。高知県では、「高知県版の外来種リストを作成し、本県にとって脅威となる外来種を特定し、効果的な対策を講じます」としており、本調査結果の活用が期待されます。

牧野植物園では、私たちのふるさとの自然をまもり後世に伝えていくため、今後とも外来植物の分布情報の収集やモニタリング調査、そして外来種問題への対策に向けた特定外来生物の防除活動などを続けていきます。引き続きご協力を宜しくお願いいたします。

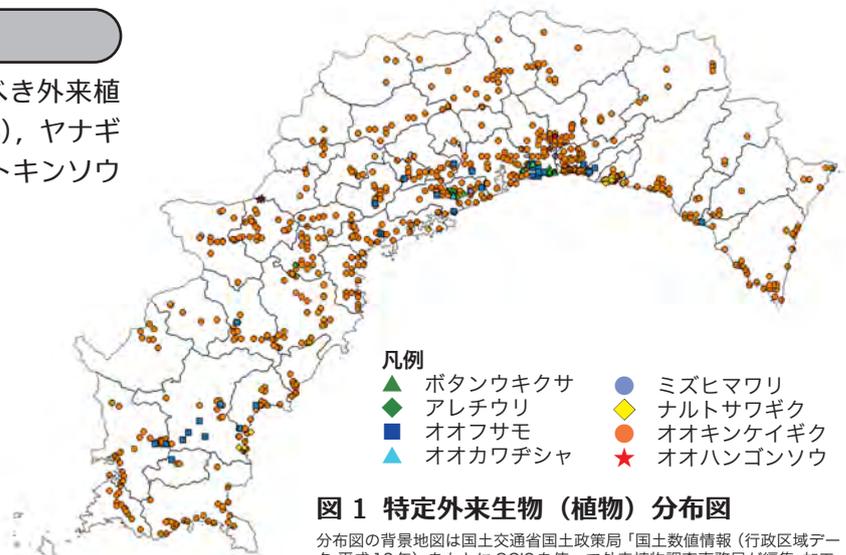


図1 特定外来生物(植物)分布図

分布図の背景地図は国土交通省国土政策局「国土数値情報(行政区域データ 平成12年)」をもとにQGISを使って外来植物調査事務局が編集・加工。

# information

## ■ 令和元年！ 分類学セミナーのお知らせ

2019年の分類学セミナーは下記の予定で開催します。今年度のセミナーは初心者～中級者向けです。植物の見分け方、見分けるポイントを初心者でも分かりやすく学べます。年号も平成から令和になり、一新紀元、興味のある方はご家族やお友達も誘って、ぜひご参加ください。

### 場所：本館 アトリエ実習室

申込先

- ・メール：田邊(kurahashi@makino.or.jp)  
橋本(thashimoto@makino.or.jp)
- ・電話番号：088-882-2673(標本庫直通,土日祝日除く)
- ・FAX番号：088-882-8635(代表)

※10月20日を除き各回定員30名です。  
※セミナー直前に詳細をご案内しますので、必ず連絡先をお知らせ下さい。  
※ボランティア登録者は、入園料無料です。

7月6日(土) ラン科(スズムシソウの仲間) 堤千絵  
10:00～11:30 (初級～中級) (国立科学博物館研究員)

7月6日(土) シダ植物(コケシノブの仲間) 海老原淳  
13:00～15:00 (初級～中級) (国立科学博物館研究員)

9月29日(日) カヤツリグサ科 矢野興一  
10:00～12:00 (初級～中級) (岡山理科大学)

10月20日(日) 午前：多様性を知る 藤川和美(牧野植物園研究員)  
10:00～15:00 午後：植物撮影教室※ 株式会社キヤノン社員  
定員15名 (初級) ※午後の教室ではカメラ貸出

11月30日(土) 植物の分類(仮題) 瀬尾明弘  
10:00～12:00 (初級) (牧野植物園研究員)

## ■ 外来植物防除活動のお知らせ

特定外来生物(植物)のアレチウリの防除活動を下記の日程でおこないます。参加ご希望の方は、ボランティア行事保険に加入しますので、締切日までに電話あるいはFAXでお申し込み下さい。

日時：2019年8月31日(土) 8:00-10:30

場所：高知市春野町森山  
仁淀川河川敷(河口から4km地点)

集合場所：新川大師堂(高知市春野町森山)

持ち物：長袖・長ズボン・長靴・帽子・革手袋または  
ゴム手袋・雨具・虫除けスプレー・飲み物・  
保険証(写しでも可)

申込締切：2019年8月26日(月)

参加お申込みは、下記まで。

電話：088-882-2673

(標本庫直通,平日は9時から17時,土日祝日を除く)

FAX：088-882-8635(代表)

※FAXで申し込みの際には、氏名・住所・電話番号(当日連絡がとれる番号)のご記入をお願いいたします。

(担当：田邊)

## ■ 植物に関する問い合わせ

毎週火曜日(休日の場合はその翌日)に植物研究課の田邊、前田、橋本(季)が高知県の植物のお問い合わせに対応しています。写真では同定が難しい種類がありますので、押し葉状態(仮押しでも結構です)にするか、新鮮なうちにお持ち下さい。

植物に関する全般のお問い合わせは、月・水・金の16時から17時まで、教育普及課の職員がお答えします(Tel:088-882-2723)。

## ■ 編集後記

本号では、キヌラン発見のニュース、外来種調査の結果についてご紹介、ご報告いたしました。

皆様のご協力により県内の植物の研究は少しずつ進んでいます。なお今後一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

No.42の発行担当：前田綾子・藤川和美・田邊由紀・鴻上泰

★原稿募集中！高知県の植物に関するニュース、トピック  
お待ちしております。



高知 牧野植物園  
The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden

〒781-8125 高知市五台山 4200-6  
TEL:088-882-2601  
FAX:088-882-8635  
http://www.makino.or.jp/

【本号の内容についてのお問い合わせ】  
前田 (ayakom@makino.or.jp)  
藤川 (saussure@makino.or.jp)  
まで